

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	中国語 I
科目基礎情報						
科目番号	0183		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子情報工学科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	楽しくできる中国語					
担当教員	川西 笑華,祖 建					
到達目標						
中国語の発音表記の仕組みを理解し、一つ一つをきちんと発音することができ、聞き取ることができる、基本的語順を理解し、簡単な文を作ることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（繰り返しや相槌、ジェスチャー、アイコンタクトなどのボディランゲージ）を適切に用いながら、積極的にコミュニケーションを図り、その応用ができる。		母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（繰り返しや相槌、ジェスチャー、アイコンタクトなどのボディランゲージ）を適切に用いながら、積極的にコミュニケーションを図ることができる。		母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（繰り返しや相槌、ジェスチャー、アイコンタクトなどのボディランゲージ）を適切に用いながら、積極的にコミュニケーションを図ることができない。	
評価項目 2	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握し、その応用ができる。他者とコミュニケーションをとるために他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握し、日本語や特定の外国語で正しい文章を応用的に記述できる。日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させ、その応用ができる。		日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。他者とコミュニケーションをとるために他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握し、日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。		日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できない。他者とコミュニケーションをとるために他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握し、日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できない。日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができない。	
評価項目 3	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明、解釈の適用ができる。		それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明し、解釈できる。		それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明も、解釈もできない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	近年多くの企業が中国に進出し、英語に次ぐ外国語として、中国語の重要性も増している。中国出身の教員のもとで、正確な発音、基本的文法を習得することにより、中国語による初歩的なコミュニケーションができるようになる。					
授業の進め方・方法	・ 全ての内容は学習・教育到達目標（A）＜視野＞及びJ A B E E 基準 1.2（a）の項に相当する。 ・ 「授業計画」における「到達目標」は、この授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする					
注意点	<到達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」を網羅した問題を中間試験および定期試験で出題し、目標の達成度を評価する。授業計画の「到達目標」に関する重みは概ね均等とし、試験問題とレポート課題のレベルは1 0 0点法により6 0点以上の得点で目標の達成を確認する。 <学業成績の評価方法および評価基準>中間・期末試験を8 0％、提出物、小テストを2 0％として、これらの平均値を最終評価とする。再試験は原則として行わない。 <単位修得要件>与えられた課題、提出物を全て提出し、学業成績で6 0点以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎知識の範囲>特になし <レポートなど>授業に関連した小テスト及び課題(レポート等)を課す。 <備考>教科書付属のC Dを繰り返し聴き、発音すること。この授業は後期開講の中国語Ⅱへつながる。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	中国語の概況 単母音 声調		0. 四声、ピンインの発音できる、聞き分けられる。	
		2週	子音 有気音と無気音, そり舌音 音		上記0	
		3週	母音（二重母音、三重母音）及びn、ngを伴う母音		上記0	
		4週	声調変化、声調記号のつける位置及び発音のまとめ。		上記0	
		5週	第一課 名前の尋ね方及び答え方		1. 初対面の挨拶 2. 名前の言い方	
		6週	第一課 動詞述語文 「」, 「呢」疑問文 第二課 相手を紹介する		3. 動詞述語文、疑問文を理解し、運用できる。友人を紹介できる	
		7週	第二課 形容詞述語文 疑問詞疑問文		4・何を学んでいるか言える	
		8週	中間試験		これまでに学習した内容を理解し、運用できる。	
	2ndQ	9週	第三課 家族の構成 所有を表す「有」構文 ものの数え方		5. 動詞「有」運用できる。よく使う数量詞を身につける。	
		10週	第三課 年齢の尋ね方 及び答え方		6. 名詞述語文	
		11週	第四課 位置を表す言葉 存現文の構造		7. 動詞「有」の存現文を理解、運用できる。	
		12週	第四課 連動文 会話、復習		上記7および 8. 連動文を理解、運用できる。	

		13週	第五課 人、ものの所在を表す「在」の使い方。「有」の使い方との区別	9. 人やものの所在を言える「有」と使い分けできる。
		14週	第五課 場所の隔たりを表す「離」の使い方及び方法、方式を訪ね方「怎么」	10. 動作の方法、場所の隔たりの尋ね方を身につける。
		15週	練習 前期まとめ	上記内容を再確認する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	

評価割合

	試験	課題・小テスト	合計
総合評価割合	80	20	100
配点	80	20	100